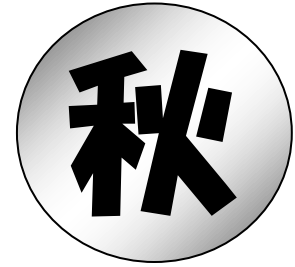


SSKU

2013

お元気ですか?
イリアンソス
です。



社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51
042-451-0252
042-451-0262 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7
042-476-3400 (F 兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23
042-473-9667

理事長の散歩道

特集

はじめまして「このみ」です！！

連載 がんばれイリアンソス⑨

すぎのこ えいぶる 宮本由美さん

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ④

社会福祉法人イリアンソス
理事長 磯部光孝

「理事長の散歩道」について、中身が硬くて「散歩道」とはイメージが違い、これまでの内容で行くなら、テーマを変えたほうがいいのではと職員から提案がありました。

あまり意識していませんでしたが、この職員のいう通りだとは思いました。そこで、今回は「散歩道」をイメージして書かせていただきました(但し、そうなっているかは、いささか疑問ですが…)。

最近、奥多摩の山に毎月登っています。もともと山登りは学生のころ何度か登っていました。今は家族と低い山を一年に何回か登っている程度です。今回、毎月山に登るきっかけとなったのは、きょうされん東京支部の運営委員の一人が奥多摩の山で遭難したことがきっかけでした。昨年の10月8日(日)に一人で山に入り遭難したのです。39歳の働き盛りの男性です。わたしは、会議で会う時に挨拶をするぐらいだったのですが、遭難の知らせを聞いたとき非常に驚きました。それは身近な人間の遭難と遭難した場所に驚きました。実は8月現在も行方は分かっていません。残念です。

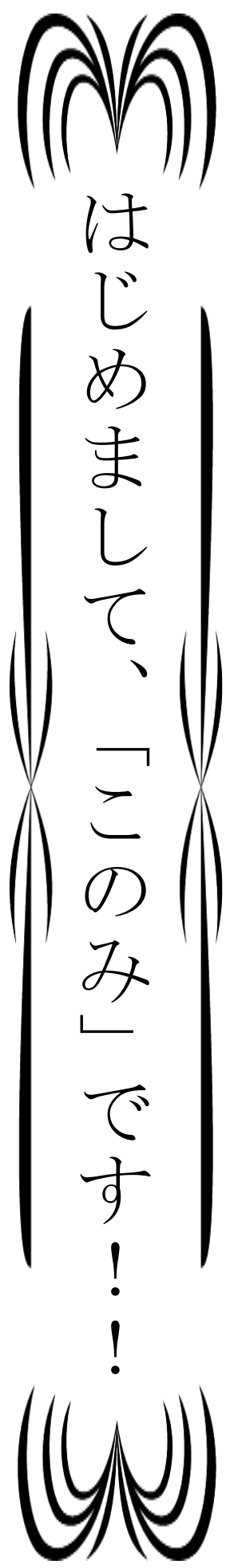
遭難した場所は、東京都の最高峰として有

名な奥多摩にある雲取山の近くでした。そして、その周辺には日原鍾乳洞もあります。この周辺は、ハイキングコースとして有名なところですが、わたしも学生時代、友だちと一緒に雲取山に登った経験がありました。夏の暑い日でしたが、大雨でテントの中まで水が来て大変だった楽しい思い出があります。

遭難した場所が一般の人も気軽に登るハイキングコースなので、本当に信じられませんでしたが、ただ、インターネットなどで調べてみると他にも遭難された方がいて油断できない場所なんだとびっくりしました。そこで、わたしは、昔の経験もあるので山の様子を知りたくなり、10月27日(土)に山に登りに日原に出掛けました。埼玉県にある自宅を朝5時に車で出発しました。早朝なのでスムーズに車は走り、6時30分には日原鍾乳洞臨時駐車場に到着しました。天候はあいにくの雨、降らない予報でしたが小雨程度の雨が降り続いていました。今回の目標は、標高1,576mの天目山(別名三ツドツケ)です。ちなみに雲取山は2,011mあります。この時間帯では、わたしの他にも一人登山者がいました。はじめの場所なのでちょっと一安心、この人がいなかったら天候が不順なので登山はあきらめていたかもしれませぬ。彼は、草花を写真で撮りながら山を登っていました。

山の登り口に入ると、すぐに急なつづらが続くヨコスズ尾根になります。とてもきつ

かったです。天目山の手前にある一杯水避難小屋には10時13分に到着しました。雨は降り続けています。少し休憩し暖かいコーヒを飲んでいると元気なおじさん?(わたしもおじさんなのですが…)がやってきて、「どこから来たの?」と話しかけてきました。そこで、友人が遭難したことを説明すると「こんな山で遭難することないんだけれどなあ」といい、とりあえず天目山に行ってみるか頂上までの道案内をしてくれました。ここも相当急な坂で道案内のおじさんについていくのがやっとなりました。頂上につくとそこは大変見晴らしのいいところでした。おじさん曰く「ここは、埼玉県と東京都の県境になっているんだ」。「以前は木が鬱蒼としており、見晴らしなんかとても悪かったんだが、わたしが木を切つて見晴らしを良くしたんだ」と話してくれました。でもしつかり埼玉県と東京都に叱られたそうです。そのおじさんは、毎週のようにこの辺りの山を登っているようです。この周辺で、転落しそうな場所を教えてください、天目山の頂上で別れたわたしはハナド岩を経て、七跳山で昼食のラーメンとサバの缶詰を食べ下山しました。はじめての場所であいにくの天気で、しかもこのあたりで遭難したのかなと複雑な思いの登山でしたが、山はとても普段と違って気分転換ができるなと感じ、その後、毎月登るようになりました。今度は、その後の山登りの様子を紹介したいと思えます。今回はこれにて…。



はじめまして、「このみ」です!!!

「このみ」ってどんなところ?

「このみ」は、1982年9月に創立。障害のある人たちとその家族が地域でより豊かに暮らすことができるように、「このみ」という思いから、主に家庭を側面から援助する活動として「緊急一時保護・生活援助」を行ってきました。

その中で「放課後や休みの日に子どもたちの遊び相手をしてほしい」という要望に応えて、遊びの活動が始まりました。1人ひとりの子どもに合わせて遊びの内容を考えたり、集団での遊びの場を設定するなど、様々な試みをするようになりました。

長い間、たくさんの方々を支えられ無認可施設として活動をやってきました。が、時代の流れや、事業の拡大も伴い2009年より同市内にある社会福祉法人イリアンソスに入り現在も活動を続けています。

大切にしていること・していきたいこと

※「このみ」を立ち上げ、そして、今も「このみ」を支え続けている佐々木玲子さん(わかき学園の先生)に「大切にしていること」を中心に今までの「このみ」について書いて頂きました。

〈学童期の放課後保障・余暇について〉

障害を持つ子どもたちに遊びの場を提供したい。障害を持つ人たちの余暇活動をどうしたらよいか?そんなテーマにこだわって30年が過ぎました。30年前、障害児の学校教育がようやく充実を始めた頃、障害を持つ人の余暇活動に理解を示してくれる社会ではありませんでした。では、なんでそこまで私は遊びにこだわり続けたのか?障害を持つて生まれても、豊かに生きてほしい。人とかかわる場を提供して、早い時期から社会に出て集団の中で成長してほしい。そんな願いがありました。その当時の障害をもつ子どもたちの生活は、テレビか、おやつを食べて家庭で母親と過ごしているのが実情でした。

〈このみの活動で大切にしていること・していきたいこと〉

学齢障害児の放課後保障とはどんな意味があるのか?

1、余暇の権利は誰にでも保障されるべきです。

余暇は文化的活動の中で人間らしく楽しんで、ゆとりを持って生きていくための時間です。これは、障害をもっている子どもも同じです。余暇の時間を友達と楽しむことを早い段階から、経験し学んでいくことが子どもたちの成人期の生活の豊かさにつながっていきます。



2、子育ては地域で見守る大切さ

子供はこれからの社会を作っていく人たちです。子育ては、こどもの将来、一生の涯をとらえていくことです。こどもをどのように育てるか？将来に向かつてどんな力をつけて人格の基礎にするか？障害を持つ子供を家庭だけで育てることは困難がいっぱいです。家庭、学校や医療、地域の相談室などと連携してのネットワークを作り、こどもを見守り育てていくために地域の中での連携が大切です。そのひとつが「このみ」です。設立の時、私たちは「このみ」にキャッチフレーズを考えました。「障害児者と共に生きる地域作りをめざす・このみ」その活動が誰でも住みやすい豊かな街作り、地域作りにつながるかと考えていました。

3、放課後活動はこどもが発達していく過程で大切な活動です。

放課後の生活は、家庭や学校ではできない活動（生活経験）ができる時間です。こどもたちは遊びの中で様々な取り組みをおこない異年齢の仲間と過ごし大きく成長していく場です。こどもには、自由に過ごせる時間、居心地のよい空間、安心できる仲間が必要です。余暇活動の中でこどもたちの発達は保障され、豊かな人間性が生まれてくるのです。

〈なぜ障害児にあそびが大切か？〉

学齢期の余暇活動は、大人になってからの原体験で、大人になっていく土台作りと密接な関係を持っています。こどものころから色々な遊びを経験すると、大人になってからの余暇の過ごし方が、趣味の活動になり人生の張り合いになっていきます。あそびの模擬体験が「こんな仕事をした」という希望につながります。人間関係を作ることの難しい障害児も対人関係を広げ生活力の形成に役立ちます。人との関係の持ち方、遊びの中のさまざまなルール、文字や数を学んだら、働いて給料をもらい仲間とどんな遊びをするか？学童期の余暇活動や遊びが成人期の人生に大きく影響をあたえ、その人の人生を豊かなものにしていくと思っています。今、私が出ている仕事も小さいときの経験やあそびで学んだこと、その時々感じたことが、大人になった私の人間形成の大きく影響していると感じます。

わかき学園先生 佐々木玲子



▲このみ外観

活動の流れ

- ① 13時00分〜 学校迎え（移動支援）
- ② 15時30分〜 のんびり時間、おやつ
- ③ 16時00分〜 活動開始
- ④ 17時30分〜 歌・踊り
- ⑤ 18時00分〜 さようなら・迎え
- ⑥ 18時15分〜 活動終了



学校からこのみにきて
しばらくはのんびりする
時間も大切にしてます。

歌に合わせて踊る時間は
子ども達も大好きです。
特に『ポニョ』は大人気。



活動紹介

子ども達の様子やニーズによって色々な
活動を行っています。皆さまには活動風景の
一部をご紹介します。

工作



工作では自分達で作った物で遊ぶ
しさを感じてもらえるような取り組み
をしています。また1年を通して季節
感を感じられるような事も大切にして
います。



室内遊び



ハロウィンではみんなでマントと帽子を
作って市役所まで行進したよ。市役所の職員
のみなさんに歓迎されました。





水遊び



何か気持ち良すぎて眠くなってきたなあ。寝ちゃおうかなあ・・・。

夏休みはこのみの駐車場に大きなプールを広げて水遊び。プールの中には水鉄砲や風船もあるので子どもはもちろん、スタッフもびしょ濡れになって一緒に楽しんでいます。



公園あそび



みんな見て見て！大きいシャボン玉できたよ～。屋根まで飛んでけー！



公園では備え付けの遊具やボール遊び、鬼ごっこなど。色々な遊びを楽しんでいます。

このみでは今後も色々な遊びを考えながら、子どもたちが集団の中でたくさん刺激を受け、豊かに成長していく支援を行っています。

おやつ作りは毎月違うレシピを用意して行きます。
「来月は何作る？」と子ども達からの質問もあり本当に大好きな活動です。できあがった達成感や食べて美味しいなどの充実感を感じられる取り組みです。



おやつ作り



おいしそうなのできたよ。

「明日は、なかまさん！」と言えば、少し緊張しつつ誇らしい！ えいぶるでは、そんな位置づけのお仕事です。
なかまの家の皆様に、昼食の提供を始めて2年が過ぎようとしています。数ある仕事の中でも、自主製品(しかもお昼ご飯!)を作る、



▲なかまの家で盛りつけをします

というのは、長いすぎのこの歴史の中で画期的なできごとでした。お料理を作る楽しさと仕事としての厳しさを実感しつつ、利用者として職員と一緒にがんばる日々の厨房です。
毎日11時を過ぎると今日のなかまさん担当者はエプロンと帽子をつけ、マスクをポケットに入れて準備完了。おかずの品々を入れた容器とご飯・みそ汁のタンク(ズンドウ、と言うそうです)を手にし、利用者2名と職員2名で車に乗り込みます。
ある日の金曜日、なかまの家の皆さんは外で缶つぶしの仕事中。「こんにちは！」のあいさつを交わしながら台所へ向かう中、「今日は唐揚げだね」の声。献立表をしっかりとチェックして待っていて下さるんだなあ：作り手として、うれしい瞬間です。台所では一人一人のお盆に食器を並べ、手袋をして盛り付け作業が始まります。一人一個づつの煮物は分けやすいけれど、ポテトサラダを均等に盛り付けるのはとってもむずかしい。真剣な顔のえいぶるメンバーです。ご飯とみそ汁をセツトして準備ができました。
扉のむこうでは、テーブル拭きを私の仕事！と張り切る利用者さんが待っていること



▲えいぶるの担当者はなかまの家で昼食を食べています

もありません。「今日は何かなあ」より、「今日は何かなあ」と、えいぶるのメンバーに会うのを楽しみにしてくれる利用者さんもいます。(なんだかいいですよね♡) 扉の両側で、しばし静かな食事タイムのあとは、食器洗い。えいぶるには、洗いの名人！が何人も登場しています。得意な仕事があるのは素晴らしいこと。空っぽになって戻ってくる食器もまた、作り手の私たちに喜びと満足感をもたらしてくれます。
なかまの家の皆様にも、えいぶるの私たちにも初めての試みだった配食の仕事です。新しい仕事の場を提供し、ご協力くださったことに感謝しつつ、「なかまの家とえいぶる、だからできる」そんな仕事にして行きたいと思えます。これからも、よろしくお願ひいたします。

がんばれ イリアンソス！ シリーズ⑨
「がんばる えいぶるのお話しです」
すぎのこ えいぶる 宮本由美

法人行事

くろとん

『リサイクル久留店』
のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売
しています。

◎日程：10月3日(木)24日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止 気温によって中止・開催時間短縮の場合もあります。

『イリアンソス大バザー』

イリアンソス後援会 掘り出し物多数！各種模擬店あります。

◎日程：10月13日(日)

※雨天翌日順延10月14日(月)

◎場所：滝山団地センター前広場

ご寄付をいただきました。

(7月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にあ
りがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構
想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

河角 稔様

早川 孝子様

平尾 なるお様

山脇 百合子様

ありがとうございます。

表紙の写真

このみの七夕のようすです。
折り紙と絵で飾りを作りました。笹も色紙
を使って作りました。みんな、どんなお願
い事をしたのかな。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

磯部光孝・多田由美・大河原敏和・田中沙樹
小川清親・矢島正樹・吉田遊佑・勝田誠矢



定価 100円

編集後記

家族会が請願した「活動センターかなえに安心して通所
できることを求める請願書」が一年前の6月議会において全会
一致で採択されました。それから一年間、家族会は幾度とな
く行政や厚生委員会とも話し合いを行ってきました。その結
果、国と東京都の補助金を使って「活動センターかなえ」を
建て替えることで今年東京都に申請を出すことになりました。
家族会の努力が解決に向けて大きく動かししていることを
感じた一年でした。

多田由美